理学部宇宙物理・気象学科 談話会のお知らせ

理学部宇宙物理・気象学科では、12 月 23 日（水）14 時 00 分より談話会を開催いたします。今回は小山孝一郎氏（現・九州大学 国際宇宙惑星環境研究センター シニアフェロー）に、初学者向けに宇宙天気や惑星大気についてご講演いただきます（講演形式は対面のみ）。皆様お誘い合わせの上、ぜひご出席ください。

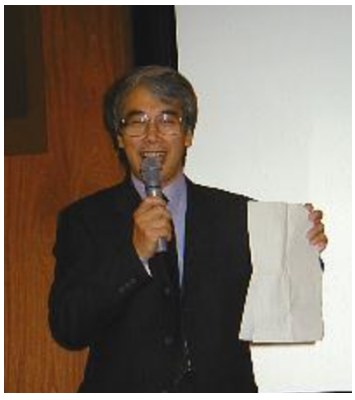
日時 ： 2026 年 12 月 23 日（水）14:00–16:00
場所 ： 万有館 4 階 405 教室

題名 ： 私たちの太陽系の中の惑星たち

要旨 ： 本講演は 2 部構成となっています。前半では、私たちが住む太陽系についてお話しします。太陽系は、銀河系の中心から約 2.7 万光年離れたところに位置し、秒速約 200 km で銀河系の中心の周りを約 2 億年かけて一周しています。広大な宇宙には、地球と同じような惑星がどれくらい存在するのか？太陽から各惑星までの距離を簡単に覚える方法はあるか？また、太陽から絶えず吹き出す「太陽風」とは何か？惑星間空間探査機「さきがけ」による日本初の太陽風観測について紹介するとともに、皆さんにはあまりなじみのない「宇宙天気」についても取り上げ、太陽表面で起こる爆発現象が私たちの生活にどのような影響を及ぼすのか、初学者にも分かりやすく解説します。

後半では、地球の双子星とも呼ばれる金星についてお話しします。地球のようなオゾン層がなく、二酸化炭素を主成分とする厚い大気を持ち、全天が硫酸の雲に覆われている金星。その地表は鉛さえも溶けるほどの高温環境にあります。このような過酷な環境にある金星は、地球の気候の進化や将来を考える上でも重要な惑星です。米国が 1978 年に打ち上げたパイオニア・ヴィーナス（Pioneer Venus）の観測成果に刺激を受け、日本でも金星探査計画の立案が始まりました。日本初の金星探査機「あかつき」の実現に至るまでの道のりを振り返るとともに、今後の日本の金星探査に寄せる期待についてもお話ししたいと思います。

小山 孝一郎（おやま こういちろう）



1965 年 3 月	鹿児島大学 工学部 電気工学科 卒業
1965 年 10 月	鹿児島大学 工学部 電気工学専攻科 中退
1965 年 11 月	東京大学 宇宙航空研究所 技官
1973 年 6 月	東京大学 宇宙航空研究所 助手
1996 年 11 月	宇宙科学研究所 惑星研究系 教授
2009 年 6 月	台湾成功大学プラズマ宇宙科学センター教授
現在	九州大学 国際宇宙惑星環境研究センター シニアフェロー

問い合わせ先：
理学部宇宙物理・気象学科　佐藤浩介・小郷原一智
Email: ksksato_AT_cc.kyoto-su.ac.jp